

南あわじ市 平成 23 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

基本事項

		整理番号	838
事業名	淡路瓦屋根工事補助金	予算科目	会計 一般会計・1 款 商工費・7款 項 商工費・1項 目 商工振興費・2目
担当部課名	産業振興部 商工観光課		
電話	0799-37-3012		
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	南あわじ市淡路瓦屋根工事奨励金交付要綱
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_	
	まちづくりの目標	大好き_ふるさと南あわじ[郷土愛]	
	施策目標	地域の歴史を学び、祭や伝統文化に親しみ、語り継ぐことのできる市民を育てる	
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託 <input type="checkbox"/> 負担金補助 <input type="checkbox"/>

Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 淡路瓦を使用した個人の住宅の建築主		対象人数(人) 140
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 地場産業の振興及び麓街並みの景観形成に寄与するとともに、自然災害の予防策並びに地震保険及び共済制度などへの積極的な加入を促進することを目的とする。		
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 新築件数 72件(奨励金 10,102,000円) 改築件数 50件(奨励金 3,940,000円)		
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 震災時、瓦が重たいため家屋が倒壊したとの悪評が流れたことにより、淡路瓦から軽いスレート屋根への移行が目立った。これにより淡路瓦業界の低迷が続き、日本の文化である麓街並みの形成が崩れてきたことを受け、旧西淡町で平成8年度から奨励金の交付が始まった。		
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()		
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前におけるの事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 合併前は旧西淡町独自の制度であり、新市で調整することとなった。旧西淡町は平成16年度同奨励金の受付を合併前の1月7日で終了した。合併後、淡路瓦業界の振興のために、平成17年4月1日から市全域を対象とした奨励金交付要綱が施行された。			

Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	淡路瓦屋根工事件数					指標単位
							件
	指標説明 (指標算出 方法等)	新築及び改築件数					
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標値	140	140	140	140	140	
	実績値	138	118	122			
	達成度 (%)	98.6	84.3	87.1	-	-	
目標値設定 の考え方	実績に基づく。						
資源配分 (インプット)		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	直接事業費 (千円)	16,993	14,644	14,042	17,000	17,000	
	淡路瓦屋根工事補助金	16,993	14,644	14,042	17,000	17,000	
	財 源 (千円)						
	国						
	県						
	起債						
	その他						
	一般財源[A]	16,993	14,644	14,042	17,000	17,000	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	670	677	658	643	643	
	平均人件費(1日当り)	27.9	28.2	27.4	26.8	26.8	
	事業量1(事業に要した日数)	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	
事業量2(事業に要した人数)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
年間経費([A]+[B])	17,663	15,321	14,700	17,643	17,643		
「目的」対象人数1人当り経費 (円)	126,161.4	109,434.3	104,997.1	126,022.9	126,022.9		
経費に関する 補足説明	平成22年度まで決算額。平成23～24年度は当初予算額。						

Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
達成度	目標達成度	%	98.6	84.3	87.1	-	-	
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 合併後に新しく市全域の制度となり、これまでの広報、HP等によるPR活動の結果、市全域に本制度が浸透してきたと感じる。景気が悪い中でも、目標値に近い実績があることは本制度が瓦利用に少なからず寄与していると考えます。						自己評価 (5点評価)	
								3
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 淡路瓦はスレート屋根に比べて高価であるが、住民からのニーズは高い。本制度は、住民が淡路瓦を利用しやすくなるとともに、葺街並み保全にもつながる。						自己評価 (5点評価)	
							3	
		単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
効率性	事業単価	円	126,161.4	109,434.3	104,997.1	126,022.9	126,022.9	
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 広報紙・ホームページを利用して、効率的に制度をPRした。今後、さらに成果を上げるために淡路瓦工業組合と連携しながら効率的に制度のPRをしていく。						自己評価 (5点評価)	
								4
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低				
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 南あわじ市の基幹地場産業である瓦業界、阪神淡路大震災以降瓦業界の不況が続いており民間だけでは打破できない状況である。これまで通りの官民一体となった取り組みが必要である。また、奨励金の交付により、淡路瓦屋根の普及を促進し、葺街並み形成および産業振興に貢献する必要がある。						自己評価 (5点評価)	
								4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		瓦業界の復興および産地としての街並み景観を考えると、意義のあるものである。					
			<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">評価グラフ</p> </div>					

Action & Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成24年度にできる改善・改革	平成25年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>本制度が浸透してきた結果、住民が少なからず淡路瓦を利用し易い状況になっている。結果的に瓦産業への振興にも大きく寄与していることから、現状維持とする。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>本事業を中止・廃止した場合、屋根材としての淡路瓦の使用が減少すると推察される。その結果、葺街並み景観が維持できなくなるとともに、瓦業界の低迷が続くと考えられる。</p>	